

新基地建設反対名護共同センター ニュース

辺野古浜テント座り込み7000日集会 —新基地建設断念まで共に!



新基地建設に反対し辺野古の浜テントでの座り込みが始まって7,000日になる6月18日。246人の参加で久しぶりの晴天に輝く海を前に集会が開かれました。

仲村善幸共同代表は「座り込みを始め7000日(19年余)、命を守る会(1997年1月)が運動を始め、26年経った。たくさんの方が尽力して新基地建設NOという名護市民投票を勝利させた。この住民運動が稲嶺進市長を誕生させ、翁長雄志知事を生み出したと自負している。私たちの思いを踏みにじっている自民党政権を変えていく大きな力を作り出していくことなくして基地建設を止めることはできない。この集会を改めて決意する機会としましょう」と呼びかけました。

稲嶺進オール沖縄共同代表は「国会請願署名が55万9000筆余り集まりました。全国からこれだけ多くの賛同がいただけただけで、辺野古の問題は全国の問題、自分事だと受け止められたことと思う。そのことに愛と勇気と強い絆を確認することができた。世界から注目されているこの大事な海を守っていくきましょう」と熱く語りました。

勝つていよばあきつめなうらや

結びに仲本興真へり基地反対協事務局長は、不正義と不条理に対する辺野古のたたかいを振り返り、「志半ばで亡くなった多くの人の思いを忘れず、その思いを背負って、沖縄を再び戦場にさせない、新基地建設を断念させるため粘り強く共にたたかいましよう」と呼びかけました。

赤嶺政賢衆院議員、高良鉄美参院議員、屋良朝博前衆院議員、渡久地修典議員等も連帯挨拶をしました。

また、北上田氏(平和市民連絡会)からは、防衛局による辺野古側埋め立て完了地への土砂仮置きについて、「防衛局は、設計変更申請が承認されていない現状で、変更申請の内容を先取りする工事を行ってはならない。本部塩川港、安和棧橋からの埋立土砂海上搬送も、7月末以降は許されない。仮置き阻止に向け県の対応を注視し、支えていこう」と報告されました。

長年家族でピースキャンダルに取組んでいる地元の渡具知智佳子さんは、「すべてにおいてあきらめないことが勝つことにつながる。地元の人間だけではたたかいを続けられなかった。私たちと共にたたかってくれた皆さんに感謝です。たたかいはまだ続きますが、8000日にはカチャーシーでお祝いのお会ができるようがんばっていきましよう」と力強く呼びかけました。

8000日にはカチャーシーを!

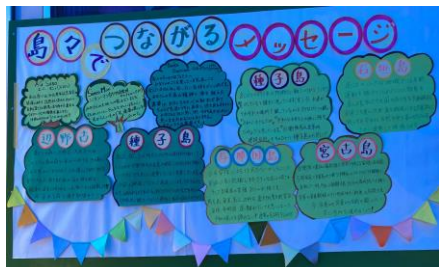


毎週土曜日にピースキャンドルを続ける渡具知さん一家

海のおまつり



慰霊の日の翌日辺野古の海で海のお祭りが開催された。主催はへり基地反対協海上メンバー。沖縄では慰霊の日が過ぎると梅雨が明けるといわれている。当日は天気も良くとてもいい日よりだった。ギターや三味線。手話による訴え。又海上メンバーからの訴えがあり心に残る海の祭りでした。カヌーが11艇、船5隻、参加人数は50人で、90分ほどの祭りでした。祭りのあと、海上保安庁職員や警備艇から拍手や激励の声掛けもあった。海を守る気持ちが一つになった?。



ありがとう16周年 TAKAE やんばる

-真の世界遺産をめざして-

“ありがとう16周年の TAKAE やんばる、と銘打って、『へりパッドいらない住民の会』主催で7月2日(日)に緑の森が広がる高江で集会がありました。

『ていんさぐ70』という団体の「はばたけ!ゲララ」と題しての人形劇で始まり、高江の森に住んでいるノグチゲラを主人公に、オスプレイの騒音で鳥達の生活が破壊されていく物語は感動的でした。子ども達にも大変わかりやすく、平和教育にもかなり効果がある様に思われました。

その次は OEJP 代表吉川秀樹さんによるカナダのバンクーバーからのズームでの「真の世界遺産について」の講演でした。生物多様性の保護という観点から米軍基地との共存は不可能なことで、高江の現状を国際機関である IUCN やユネスコ世界遺産センターに問題提起し、そこから日米両政府に働きかけ基地撤去の方向へとつなげる運動に携わっているとのことでした。高江の16年の闘いも大きな力になると話していました。

続いて、『沖縄高江への愛知県警機動隊派遣違法訴訟の会』の報告がありました。「公安委員会にはからず、県警本部長が専決したのは手続き上の違法と断じた」とのことでした。

続いて千葉県『ONE LOVE 高江の会』や関東近郊の『ユンタク高江の会』等の活動報告がありました。

高江の闘いが全国的に広がり繋がっていることは、先島諸島に展開されている自衛隊の駐屯地・ミサイル配備・弾薬庫建設などの軍事化が、これから進む本土での闘いにも大きな力を発揮するような気がしました。